

# 伊那市立高遠北小学校 表現活動への取り組み

伊那市立高遠北小学校 村上春太・川村優美・田中志穂

はじめに・・・

本年度は研究グループとして表現部会を立ち上げ、表現活動における子どもたちの意欲の高まりや活動の過程で生まれる変化、他者に観てもらった時の児童の姿や心境を追った。また表現活動が子どもたちの学びに、どのような広がりや深まりを与えているかということ部会の研究テーマに据え、表現活動の意義を考えていった。「表現」といっても様々な表現がある中で、私たちは本校の伝統とも言える音楽劇に焦点を当て、その取り組みについて論文を書いた。

## 【伝統的な活動】

伊那市高遠町は東京音楽学校（現在の東京藝術大学）初代校長として活躍した伊澤修二先生ゆかりの地である。先生の功績を顕彰するために始まった音楽祭で、毎年5年生が音楽劇を発表している。5年生以外の学年も応援の意味を込めて参加し、鑑賞している。これは平成4年から続いている伝統的な活動である。

## 【音楽劇の魅力】

音楽祭の他にも校内音楽会において1～4年生が音楽劇を発表したり、国語の授業においても単元によっては劇にしたりして表現活動を楽しんでいる。音楽劇は工夫すればするほど奥が深く、練習の過程では子どもたちは自分を見つめ、他者を見つめ成長していく。登場人物になりきってセリフを言ったり歌をうたったり、BGMに合わせて表情を変えたり表現の幅を大きく広げていく。

## 1年生と5年生の実践

### 【1年生】

音楽会では「北風と太陽」に取り組んだ。北風チームと太陽チームに分かれ、一人で言うセリフやチームで言うセリフがあり、歌や鍵盤ハーモニカ演奏も織り交ぜた15分程の発表となった。劇中では、北風と太陽が楽しく遊んだり、けんかをしたりするなど、喜怒哀楽をはっきりと分かりやすく演技することができた。

国語で物語教材を扱うたびに、児童らは「劇にしたいな～」とつぶやいていた。登場人物の心情や状況を理解するために、授業中には担任の音読に合わせて児童が各々考えた動きをするという活動を頻繁に行うようにした。そして、主に単元の終末で劇作りを行った。



「北風と太陽」の中で旅人が寒がっている様子を表現する子どもたち。



命のはかなさを子どもたちに伝えている様子

### 【5年生】

伊澤修二記念音楽祭では「高遠北小バージョン 火の鳥」を上演した。子どもたちは先輩たちが出演してきた舞台上で、自分たちも思い切り表現しようと毎日練習に取り組んだ。いろんな先生に見ていただいて感想を教えられたり、動画で劇の様子を撮影して振り返ったりした。劇中歌では歌詞がはっきりと伝わるように、発音の仕方やブレスの位置も工夫した。練習する中で徐々に子どもたちの中に相手意識が生まれ、どのようにしたら見ている人がわかりやすいか、自分たちが劇を通して伝えたいことが伝わるかなど、様々なことに思いをめぐらせるようになった。相手意識を持って表現したからこそよりよい作品になったと思う。

